

## 第 389 回 ATIS 例会報告

2017 年 4 月 19 日、第 389 回 ATIS 例会が行われました。

当日は、先ず、神戸の理化学研究所にて施設見学会が実施されました。

最初に、計算科学研究機構(AICS)において日本が世界に誇るスーパーコンピュータ「京」の見学です。6F のホールにて、「京」の開発経緯やその活用事例の説明を受けました。10 ペタ FLOPS の壁を初めて超えた ① 高性能に加え、② 省エネ性能、③ 使い易さ、④ 高信頼性(安定稼働とともに、一部に不具合が出て全体は止めずに動かしながら直せる)、を兼ね備えた純国産のマシンであること等をご紹介頂きました。その後、前方のスクリーンが開いていくと、そこには「京」コンピュータの本体がずらりと並ぶ圧巻の風景が出現しました。これは大きなサプライズで多くの会員が感動の声をあげていました。上方の天井には現在の稼働状況が映し出され高い稼働率が見てとれました。



質疑に移ると多数の質問が寄せられ、中には厳しいものもありましたがいずれの質問にも真摯にお答えいただき、会員の満足度も非常に高いものがありました。利用料が意外に安く、しかも学術的な成果を公開すれば無償ということには理化学研究所の心意気を見た気がします。現在は後継機となるポスト「京」設計検討が行われているとのこと、日本の科学技術力に意を強くいたしました。

次に向かったのは、融合連携イノベーション推進棟(IIB)です。産官学から優秀な頭脳が集まり最先端の研究開発が行われているところで、8F の講堂にて 2 つの研究テーマの説明を受けました。1 つ目は多細胞システム形成研究センター(CDB : Center for Developmental Biology)です。ここでは、「発生生物学」、「分子細胞生物学」、「再生医学」分野の研究基盤を礎に応用を見据えた研究が行われているとのことで、iPS 細胞の臨床研究として話題になった加齢黄斑変性の治療についてや立体組織生成の話題を紹介していただきました。2 つ目はライフサイエンス技術基盤研究センター(CLST : Center for Life Science Technologies)です。ここでは分子イメージングの研究を行っており、形ではなく「はたらき」を「観る」ことを主眼に新たな PET プローブの開発等に取り組んでいます。PET 検査によりどんな癌がどこにどれだけあるかを調べることが出来たり、アルツハイマー病の早期診断につながる事が期待されるとのことでした。



2 つのテーマとも女性担当者にプレゼンテーションを行っていただき、ダイバーシティの進展を実感し、知識の豊富さもさることながら、質問に対する丁寧な受け答えなどでは女性ならではの特質が十分に発揮されていると感銘を受けました。

最後に向かったのが、同じ融合連携イノベーション推進棟の6FにあるIIBサロンです。ここは産官学に加え事業化に必須の金融も交えて様々なディスカッションや協働が可能なスペースです。ここを拠点に健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックスは「個別健康の最大化」をコンセプトに異分野・異業種を結集した融合研究開発の取り組みからビックデータを活用した新たな健康関連の商品・サービスの創出を模索しています。

今回の見学は通常の施設見学よりもハイブローでアカデミックな内容でした。

見学会に続いて、IIBサロンにて、第389回例会を行いました。

第389回例会では、時間の関係で代表幹事報告のみとなりました。会員の入退会や会社名変更、社長交代などが紹介され、更に例会スケジュール等の説明、分科会活動のテーマ募集、INPIT 検索エキスパート研修(上級)の案内などが報告されました。最後にATISの活動を会員にとってより魅力あるものにするため、会員の業種・業態の変化、会員のニーズについてのアンケートを依頼していることを紹介し自由闊達な意見を寄せていただくようお願いするとして報告を締めました。

以上